

国勢調査の活用例

財団法人 計量計画研究所

1. パーソントリップ調査をはじめとする交通行動データへの活用

- ・ サンプル調査の母集団特性、通勤・通学の圏域設定等、調査の企画・設計するための地域別・個人属性の基礎データとして活用
- ・ サンプル調査による交通行動データを拡大して、全体量とし表現するための母集団データとして活用
- ・ 防災・非常時（例えば、震災時の帰宅困難者、台風・津波等の災害時の通行止め、パンデミック等）への影響分析の基礎データとして活用

2. 将来交通需要予測への活用

- ・ 将来交通需要予測モデルの構築と将来交通需要予測の前提となる地域別・個人属性別人口特性の分析

3. 地域・都市計画への活用

- ・ 今後の都市・地域計画を策定するための基礎データとして、都市・地域における人口動態（市街地の変化、成長・衰退の状況等）を分析
- ・ 人口ポテンシャルとして地域格差、限界集落等の全国及び地域の問題・課題の把握と今後の政策への活用

4. 経済効果分析への活用

- ・ 全国及び地域の経済効果分析の基礎データとして活用
- ・ 交通ネットワークと連動し、時間圏域人口・交流人口等の指標作成に活用（例えば、道路整備により主要都市まで1時間でアクセスできる人口の拡大（メッシュデータで地図上に表現））

5. 環境の影響分析への活用

- ・ 大気汚染・騒音等の人的な影響分析となる基礎データとして活用

6. 国際比較分析への活用

- ・ 社会経済・インフラの整備状況等の国際比較を行うための基礎データとして活用

7. 利用者の視点からみた国勢調査の課題・要望

- ・ 時系列の人口動態、産業変化を踏まえた計画・政策への反映
 - ◇ 時系列変化を捉える場合が多いため、産業の組み換え、市町村合併がなされると、時系列比較が困難になる。そのため、町丁目よりもメッシュ単位で分析することが多い。旧産業区分での就業者数の公表も希望する。
- ・ GIS や他の統計データとの連動
 - ◇ GIS を活用した地図による表現が要求されている。
 - ◇ 交通ネットワークデータ、交通行動データ、経済・環境等の他の統計データとの組み合わせが要求されている。
- ・ 市町村合併が進むにつれ、市町村のなかの交通流動の把握が困難になってきている。通勤・通学等の短距離の流動把握において、国勢調査は全国一律に取れる貴重なデータであり、市町村のなかの流動把握も必要である。